大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

歴史街道ジャンクション・美章園

～難波大道から奈良街道、田辺街道を歩く～

日本書紀によれば推古21年(613)に「難波から京に至るまでに大道を置く」とあり、難波宮から飛鳥に至る難波大道が設けられたとなっていますが、じつはその大道のラインにあるのが寺田町・河堀口・美章園…。奈良街道、高野街道、田辺街道など、いくつもの街道が交錯するまちを巡ります。

①寺田町駅

昭和7年(1932)開設。駅名の寺田町とは、その昔、この地一帯が四天王寺の寺田(じでん)であったことからつけられたといわれています。寺田町駅より一直線に北上すると難波宮に当たります。日本書記には「天武8年(679)、初めて関を竜田山、大坂山に置く。依りて難波宮に羅城を築く」とあり、天武天皇によって難波と大和を結ぶ最も主要な道に関を設け、難波京の周囲に城壁をめぐらしたとありますが、寺田町駅界隈こそが、その難波宮の南端で、ここには羅城があったという説もあります。

②難波大道

日本書紀によれば推古21年(613)に「難波から京に至るまでに大道を置く」とあり、難波から飛鳥に至る難波大道が設けられたとなっています。昭和55年(1980)に大和川・今池遺跡(松原市)で全長約170メートルにわたって真っ直ぐにのびた古代の道路跡が発掘され、堺市常磐町でも下水処理の新設工事中に幅18メートルの道路遺構が見つかりました。この直線道路を北に延長すると難波宮の中軸線上に位置し、さらに出土品も難波宮とほぼ同時代のものであることから難波大道の遺跡と考えられています。難波宮を南下して四天王寺、寺田町駅、桃が池、法楽寺、山坂神社を通って、堺市の長尾街道・竹ノ内街道からは東に折れて、飛鳥・大和に通じていました。

③下高野街道(田辺街道)

江戸時代に市中から高野詣の近道として西高野街道ともに大いに利用されたといわれています。ルートは四天王寺～寺田町～田辺～天美(松原市)～八下(堺市)～岩室(大阪狭山市)で、その後、西高野街道と合流します。田辺に向かう街道でもあるので、田辺街道とも呼ばれます。

④生野地蔵尊

摂津国東成郡生玉ノ庄、四天王寺にほど近い毘沙門池に埋もれていた尊像を、村人が明治初期に安置、地蔵堂を造営したのが起源といわれています。尊像2体の1体は蓮弁の座の像の上部に梵字、右側に法身、左側に享保12年(1727)と刻まれています。昭和31年(1956)生野地蔵奉賛会によって新地蔵堂が落成されました。

⑤黄金地蔵尊

大正9年(1920)頃、平野街道筋に居住していた仏師・吉本久三郎氏が木造一刀彫の地蔵菩薩を、現在地よりやや西寄の地(字黄金地)に祀ったのが、黄金地地蔵の起源といわれています。

⑥竜田越奈良街道

大阪と奈良を結ぶ奈良街道の一つで、龍田大社付近を越えることから「竜田越」とよばれています。飛鳥時代に、難波津・四天王寺と斑鳩里・法隆寺を結ぶ街道として整備されました。四天王寺、法隆寺ともに聖徳太子ゆかりの地で、聖徳太子もこの街道を往復していたといわれています。現在は国道25号が踏襲しています。

⑦猫間川跡

古文献、古地図などに記載され、往古は自然の川でしたが現在は暗渠下しています。阿倍野区桃ヶ池の近辺の溜池、用水の余り水、そのほか一帯の排水を集めています。天王寺町から北流し、源ヶ橋より上町台地東側に沿い、台地の流水も受けながらJR環状線にほぼ平行に流れ、JR大阪城公園駅付近の西側へ。さらに北流して平野川(現在の第2寝屋川下流部)に合流します。猫間川の名称については「この辺りが猫間家の所領であったから」という説があります。市街化が進み、下水の排水も汚濁が進んだので埋め立てられ、昭和32年(1957)に暗渠工事が完了しました。延長1775メートルで、跡地は道路または公園となっています。

⑧源ヶ橋

初代の源ヶ橋は摂津の国では最も古い橋の1つといわれ、すでに延暦年間(782～806)に架けられていたといわれています。近世の源ヶ橋は木造の欄干橋でしたが昭和5年頃(1930)から猫間川が暗渠となってから、いつのまにか橋は撤去されました。

⑨沖見地蔵

その昔、猫間川の渡し守で源兵衛という男がいましたが、じつは通行人を殺めて金品を強奪する悪党でした。ところがある日、いつものように殺した旅人が長年、行方を探していた実の息子で、深く後悔した源兵衛は、出家して有源上人となり、罪滅ぼしとして貯めていた悪銭で、猫間川に伽羅香木の橋を架けました。また自ら仏像を刻んで猫間川の船着場のほとりに造立して、それが沖見地蔵といわれています。

⑩三本松の跡

かつて、このあたりに「ボテショの池」と呼ばれた池がありました。大正中頃に埋め立てられましたが、傍の三本松がかろうじて残され、三本松(実は榎)の八平狸の祠と呼んで地域住民の素朴な信仰の対象でした。しかし時代が変わると信仰心が薄れ、昭和13年頃(1938)には伐採されてしまいました。

⑪八反田地蔵

文政年間、天王寺村の人たちが五穀豊穣、無病息災を願ってこの地、八反田に奉祀したのが始まりといわれています。しかし地蔵を詳しく調査してみると、じつは阿弥陀如来の本尊であることがわかりました。地元では古くから大坂夏の陣で非業の死を遂げた豊臣方の武士の霊を弔うために祀られたものだと伝えられています。堂壁には「元治元年(1864)、こぼり、こぼれぐち、石工小西屋喜兵衛、他力以再建」の銘があります。

⑫法山寺

真宗大谷派の寺院で建立時期は不詳です。明治中頃まで境内に大きなサボテンがあったので別名・サボテン寺とも言われました。当初は四天王寺別院でしたが、応永年間(1394～1427)に真宗に転じ、明応6年(1497)に再建。広大な寺院でしたが昭和20年(1945)3月13日の大阪大空襲で本尊の木像阿弥陀如来像、薬医門以外は焼失していました。昭和25年(1950)に天王寺区伶人町から移転して、移転跡地は星光学院になっています。木像阿弥陀如来像は藤原様式で、全体に穏やかさを感じさせる上品な表現で下頬の張ったふくよかな表現で、シンプルな衣の文様が腹部にU字型、その下にY字形文様を描いています。薬医門は病人の往来を妨げないために扉を設けない門で、室町時代に寺院と医師の家に使われました。

⑬河堀口駅

大正12年(1923)開業。延暦年間、摂津河内地方の水害対策を桓武天皇より命ぜられた和気清麻呂が茶臼山の東南あたりより開削工事を始めたが途中で挫折。治水工事は未完成に終りましたが、その開削工事を始めた地点を河堀口→カワホリ、コボレグチと称するようになったといわれています。

⑭福田屋

坂本竜馬や中岡慎太郎たちが上洛の際、街道沿いにある野根を通過する度に、宿場の茶屋で味わったという土佐の名物「野根まんぢう」。土佐藩主・山内容堂も参勤交代で甲浦港を出港する際、必ず買い上げたと言われています。大正7年に高知県安芸郡野根にて創業の「福田屋」さんは、昭和63年に阿倍野へ移転。昔ながらの野根まんぢうにこだわり、老舗の味を守り続けています。

⑮豊下製菓

明治5年(1872)創業。くいだおれの街・大阪の舌に鍛えられ、育ったおいしい有平糖とキャンデーをいろいろ取りそろえて、十八屋のかんぱん娘・おタネがお待ちしています。なにわの伝統飴野菜はお土産に最適です。

⑯美章園駅・遭難供養之碑

昭和20年(1945)2月14日。阪和線美章園駅に落下した1トン爆弾は鉄筋コンクリートの橋脚を粉砕するとともに、付近の民家20戸余りを破壊し、死傷者30余名をだすという大きな被害をもたらしました。当時の駅職員の手で昭和26年(1951)8月24日に供養の碑が建てられました。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。